

医歯薬通信 SANS FRONTIERES vol.13

水戸葵陵高等学校ホームページ <http://www.kiryo.ac.jp/>

はじめに

2012年度医歯薬コースの卒業生の数多くが平素の努力を遺憾なく発揮し、それぞれの志望大学や志望学部への進学目標を達成しました。目標の第一関門を突破できた諸君には、その健闘を大いに称えたいと思います。

また、医歯薬コースの一、二期生達が今年度も医師、歯科医師、薬剤師等の国家試験に合格し、大学病院等の医療スタッフとして歩み始めています。それぞれの先輩がそれぞれの分野に於いて、地道な貢献を果たしていつてくれることを心から願います。

兎角、医師、歯科医師などというと派手な活躍や英雄的行為が取り沙汰されたりすることが多いですが、その多くは市井の *unsung hero* として一般庶民に寄り添いながら淡々と自らの使命を果たしている方達であると思います。

ところで、医学部に進んだ先輩達の全てが順調に進級や国家試験の合格を果たしているわけではないということも皆さん肝に銘じておいて下さい。他から見れば羨ましいほど順境にあるように見えても人生には苦労や試練は付き物です。

それでも自らの志を貫く継続性があれば必ず道は開けるはずです。他を羨ましがる前に自らの場所で今できることに全力を傾注しようではありませんか。

「8年連続医学部現役合格」などという宣伝文句に心を奪われることなく、常に新たな挑戦を続けていきましょう！そして11年目を向かえる医歯薬コースの新たな *chapter*, 新たな *legend* をつくるのです。

修学旅行



私たちに、なじみのない欧州の文化はすべて真新しく見えました。電柱が1本もなく、生活感がまったく感じられない街並みやアストンやトライアンフ、ロータスの様な独特なデザインのブリティッシュカー。無駄にフランクなアルバニア人に絡まれたりと、日本では体験できない世界でした。私は、修学旅行後に確実に英語に対するモチベーションが上がったと思います。近い将来にまた訪れてみたいです。(2-1 男子)

修学旅行を通して、日本食の素晴らしさを実感しました。はじめての海外だったので、全てにおいてワクワクし、テレビや本の中だけだったものを目の前で楽しむことが出来ました。その中でも、現地の食事は食文化が違い食べ慣れていないということもあり、あまり食べることが出来ませんでした。夕食での前菜、メイン、デザートとコース料理は見た目も鮮やかで心も温かくなり、日本ではなかなか出会えない美しさがあると思いました。ただ、味付けだけはやはり大きく異なり全ての人がおいしいとは感じないということもわかりました。日本の料理は世界中で注目され、各国で日本食のお店が多く展開されていて世界に通用する料理だと再認識することも出来ました。世界で認められている日本料理を、当たり前で食べられることは、とても幸せなことであり、そんな国で生まれ生きていけることは誇らしいことだとも思いました。(2-2 女子)

いのちの学習会

今回の講演で日本と諸外国での臓器移植の実態の違いや実際に臓器移植をするということとはどのような手順で進んでいくのかなど映像を通して分かりやすく学べたのではないかと思います。講演を聴いて、僕も家族と臓器移植について話し合う機会を得ることができました。親には親の、子には子のそれぞれの意見があり臓器を提供する側、してもら側について考えていくと講師の先生が言っていた通り「これだ！」と思える答えは見つかりませんでした。しかしこのような馴染みのない話を聞いたときに自分自身の考えを持ち家族や周りの人と話合うのはとても大切に価値のあることだと感じました。(2-1 男子)

特別養護老人ホームボランティア

12月、放課後の課外授業の合間を縫って1年生の希望者20人ほどが集い、特別養護老人ホーム「ヴィレッジみと」にてクリスマス会を実施しようと準備を進めていた。施設のセクション毎に班をつくり、手製のクリスマスツリーやメッセージカード、余興を計画。クッキング同好会にもクッキーを焼いてもらうなど準備は万全であった。しかし、当日施設内にてインフルエンザが生じてしまい、残念ながら会は中止、数人の生徒と共にプレゼントや手製の装飾品をお渡しするにとどまってしまった。実施には至らなかったが、みんなで慌ただしくも楽しく準備したこのような機会は非常に有意義であったと思う。ボランティアとか特別養護施設という構えがちな生徒も多いが、このような機会をこれからも提供していきたいと思う。以下は生徒のコメントである。

「来てくれるだけで嬉しいんだよ」。事前打ち合わせで施設の方からお聞きした言葉がとても印象的でした。インフルエンザの影響で残念ながらクリスマス会は実施できませんでしたが、企画や準備を通して貴重な経験をさせていただきました。これからも様々なボランティア活動に積極的に参加していきたいです。

総合学習発表会



3月16日と18日の日程で1年生による総合学習発表会が行われました。「iPS細胞」や「臓器移植」など

医療・健康をテーマにグループごとに資料を作成しました。私たちは身近な「ダイエット」を選び分担を決めて、その利点と危険性をスライドにまとめました。そこで改めて食事・運動の大切さや拒食症・過

食症の危険性を認識し、見やすいスライドを作って見る人の心に残るような工夫をしました。プレ発表で指摘された部分を修正し発表当日に臨んだことで、納得できる発表と落ち着いた質疑応答ができました。他のグループの発表も充実していて医療の幅広さと重要性を実感した2日間となりました。来年度は先輩として発表する立場になります。奥行きのある発表を心がけ、医療従事者に必要な教養を医歯薬コース全体で身に付けていければ、と思いました。

(1-2女子)

救命救急講習会



平成25年3月19日(火)、平成25年3月22日(金)、医歯薬コース1年生が救急救命講習に参加しました。

心肺蘇生、人工呼吸の仕方、AEDの扱い方などを指導していただき、最後に2人一組での実技をおこないました。今後、災害時でも対応できるよう皆熱心に取り組んでいました。後日、普通救命講習修了証が水戸市消防本部消防長より発行されました。

千葉科学大学・杏林大学出張模擬授業



3月13日に杏林大学と千葉科学大学から3名の先生を招き出張模擬授業が開催されました。私はそのうち杏林大学

保健学部病理学研究室の大河戸先生と、千葉科学大学危機管理学部の畑先生の授業を受けました。

大河戸先生は携帯電話を用いた参加型の授業で癌についての説明と、癌がどのように診断されるか説明してくれました。癌細胞が1cmの大きさに達するのに私は数ヶ月程度と考えましたが、10年かかるということを知って驚きました。また、癌細胞発見する検査の1つである細胞診断検査で実際に使用した細胞の写真を見せていただきましたが、無数の細胞から癌になる前段階の細胞を短時間にかつ正確に発見することは私には不可能で、臨床検査技師

の仕事が、想像以上に大変な仕事だということもわかりました。

畑先生は、「ハダカデバネズミ」と先生の趣味である「埴輪」のユニークな話を交えながら臨床検査技師の役割や仕事内容を楽しい例を用いて簡潔に分かりやすく教えていただきました。

普段私たちがあまり目を向ける事のない、病院の裏方の仕事に目を向け重要さ大変さを知る良い機会となりました。

(2-2 女子)

推薦図書

iPS細胞とは何か、何ができるのか 日経サイエンス編集部編
京大の山中伸弥教授によって2006年にマウス、翌年にヒトの細胞で作られた「iPS」細胞の研究は、世界中で激しい競争が起こっている。ヒトは約60兆個の細胞でできているが、その始まりは受精卵であり1つの細胞である。受精卵には、ヒトとなるための2万2千個の遺伝子がセットされており、受精卵は細胞分裂を繰り返し、妊娠初期のうちに肝心な肝臓や心臓、目や血液などの臓器や組織を構成する220種類の細胞に分化する。分化した細胞は細胞の役割が決まるとその他の遺伝子は鍵がかかって読めなくなってしまう。これを覆したのが、iPS細胞である。哺乳類では不可能と思われていた分化した細胞の遺伝子の再発現を可能にし、分化した細胞をリセットすることで再生医療や新薬開発が可能となる。将来医療従事者を希望する皆さんには、この本を読んで細胞をどこまで操作すべきなのか、生物に死が訪れないことも起こり得ることなのか、倫理的な問題まで深く考えて欲しい。

大学入試関連

1月19日(土)、20日(日)にセンター試験が実施されました。2日間、天候にも恵まれ、順調に試験を終えました。今年は全国平均で、数学I・Aや国語が難化し、5教科7科目(900点満点)の全国平均点は572点から531点と大きく下がりました。

今年度の本校医歯薬コースでは、福島県立医科大学2名を含め、のべ7名が医学科に合格しました。

平成25年3月23日(土)には、今年度見事難関大学に合格した卒業生から在校生に大学受験について、その貴重な経験を発表してもらいました。受験勉強の秘訣、ストレス発散方法、志望大学決定時期などについて、話をして頂きました。

■参加した先輩たち

- 福島県立医科大学 医学部 医学科 2名
- 早稲田大学 人間科学部 人間環境科
- 慶應義塾大学 環境情報 環境情報
- 静岡大学 工学部 機械工学科

